

スコープ



中国・武漢のGMCで講義する杉山社長(中央、7月)

「八角形住宅」で知られる南富士産業(静岡県三島市)。本業の屋根・外壁工事に力を入れる一方で、いま杉山定久社長が日本と並ぶ活動拠点にしているのが中国だ。新規事業として武漢、西安、広州、北京の四市に、中国人学生を企業の経営幹部に養成する塾「GMC(グローバル・マネジメント・カレッジ)」を開設。自らも講師になって学生を鍛え、日本と中国を頻りに行き来している。

力やリーダーシップを培わせる。卒業と同時に企業に送り込み、育成料を受け取る。社会人経験のない学生を、果たして短期間でビジネスのリーダーに養成できるのかと当然思う。が、GMCでの彼

「アジアの頭脳」活用 to 格差

中国に進出した企業は工場従業員を安い人件費で雇っても、販売責任者や事業部門のリーダーなどマネジメント(経営)層の確保には苦労している。GMCはそうした悩みを持つ日系企業を顧客にした人材育成ビジネス。大学生、大学院生に半年かけて、無料で経営幹部に求められる企画

らの実績をみると、そんな疑問も消えていく。学生が提出するレポートは企業で十分通用する論理的な内容だ。例えば植物の茎から作ったある企業の建材についてのレポートは、建築現場で

の加工のしやすさや工事価格の削減効果をはじめ、原料調達の先々の農家にどのくらいの利益をもたらしているかまで多面的に分析。工事会社と農家の双方にメリットがあるうえ、廃棄物の有効活用にもなっ

てのプロジェクトに加わる。あの削減効果をはじめ、原料調達の先々の農家にどのくらいの利益をもたらしているかまで多面的に分析。工事会社と農家の双方にメリットがあるうえ、廃棄物の有効活用にもなっ

「素質のある学生はマネジ

の頭脳」の潜在力に着目し、(静岡支局長 水野裕司)

おり、今後有望な商品と報告している。GMCは「座学三割、実践七割」を掲げる。学生はチームを組

「頭脳」や「知」が豊富なのは中国だけではない。日本企業が労働力の安さに目を向けてきたアジア諸国にも、優秀な頭脳は多数いる。そうした他国の人材パワーをどう活用していくか、企業は今後問われそう

その活用のインフラをつくったのが南富士産業だ。GMCの学生は何百倍という高い競争率の選考試験を突破し、もともと高い能力に一段と磨きをかける。今年六月に武漢など四市合わせて第四期生四十五人がGMCを修了し、ほぼ全員が日系企業の幹部級ポストに就いた。七月から第五期が開講、「向こう一年で百人を輩出したい」(同社長)という。

こうした動きから分かるのは中国が持つ「知」のパワーの大きさだ。ハングリー精神があり、優秀な若者は自分伸ばそうと躍起。斬新な着想や独創性を持ち、企業のコア(中核)になりうる人材の数は、人口が多いだけにおそらく日本の比ではない。「中国第に差が開きつつある。」



静岡

静岡 054-2553-7191
浜松 053-4452-8599

